



男子部中等科や高等科の生徒ら十数人でつくる「性の自分らしさを考える自由の会」は、性的少数者（LGBT）を取り巻く社会問題などをテーマに、勉強会や講座を開くなどの活動を続けている。

生徒らは週1回程度、教室や図書館に集まってLGBTに関する本やニュースについて意見を交わし、偏見をなくすためにどのように社会に働きかけるか、その方法を話し合う。

発足のきっかけは、2年前、男子寮で生徒らが話をしてきたとき、生徒の一人がLGBTであることをカミングアウトしたこと。会のメンバーで高等科3年の木村翠さん（17）は「周囲に打ち明けられずにつらい思いをしてきたこ

LGBT 学び、社会に訴え

自由学園（東久留米市）



高野教諭(左)の話に耳を傾ける「性の自分らしさを考える自由の会」のメンバーたち（東久留米市の自由学園で）

とを知り、ショックを受けた」と振り返る。同時に「自分の不意な発言が、これまで色んな人たちを傷つけてきたかもしれない」と反省したという。生徒らは社会学に詳しい高野慎太郎教諭(27)にLGBTについて学びたいと相談し、高野教諭が顧問となって、6人で会が発足。メンバーは社会学の専門家に話を聞いたり、公共施設や他の学校で勉強会を開いて参加者と意見を交わしたりして、心と体の性について学んできた。

勉強会では、来場者とテーブルを囲んで意見を交わす場もある。意見を交換することで新たな疑問を持つことができ、一方、「当事者ではない自分たちが、どこまで踏み込んでいいのか」と戸惑いを感じることもあるというが、高野教諭は「社会に働きかけた

いという生徒たちの強い思いは、必ず伝わるはず」と考えている。

木村さんは「誰もが自分らしく生きられる社会を実現したい」と思いを語る。

(松本勲)

◇自由学園

1921年創立の私立。キリスト教精神に基づく一貫教育を実践しており、東久留米市にある幼稚園から大学部には約800人が在籍する。中等科、高等科は男子部と女子部に分かれている。教育理念は「『真の自由人』を育てる」。男子生徒や学生による埼玉県などでの植林・育林活動は1950年から続いており、ヒノキなどの木材は校舎の一部に使われている。